

国立劇場養成所では伝統芸能の伝承者を養成するため、能楽（三役）の研修生を募集します。

国立劇場養成所 令和8年4月開講

第13期

能楽 「三役」 研修生募集

募集役方

ワキ方 福王流、笛方 森田流、
小鼓方 幸清流、大鼓方 葛野流、
太鼓方 金春流、狂言方 和泉流



国立能楽堂

お問合せ

国立劇場養成所
国立能楽堂 養成係

TEL 03 (3423) 1483【直通】

✉ nohgaku3yaku@ntj.jac.go.jp



能楽[三役] 第13期 研修生募集

能楽は、観阿弥・世阿弥の時代（室町時代）に成立し、
650年以上ものあいだ日本人に受け継がれてきた大切な芸能です。
国立能楽堂では、能楽を未来へ繋いでくれる若者を広く一般から募集します。

募集する役方

ワキ方=福王流
笛方=森田流
小鼓方=幸清流
大鼓方=葛野流
太鼓方=金春流
狂言方=和泉流(野村万作家)

協力団体	一般社団法人日本能楽会、公益社団法人能楽協会、能楽宗家会
応募資格	中学校卒業（卒業見込みを含む）以上で、原則として23歳以下の方。経験は問いません。
募集期間	令和7年10月1日(水)～令和8年1月30日(金)
選考方法	作文、簡単な実技試験、面接を行い選考します。
選考日	令和8年2月～3月を予定（日程が決まり次第、応募者にお知らせします）
選考場所	国立能楽堂（東京都渋谷区千駄ヶ谷4丁目18番1号）
研修期間	令和8年4月～令和14年3月まで（基礎研修課程3年、専門研修課程3年）
研修時間	原則として、月曜日から金曜日までの平日午前10時から午後6時まで
研修内容	専攻実技・謡・仕舞・四拍子(笛・小鼓・大鼓・太鼓)・講義・舞台実習・楽屋実習・公演見学 他
適性審査	研修開始後8ヶ月以内に適性審査を実施し、研修継続の可否を判断します。
受講料	無料
奨励制度	希望者には奨学金（伝統芸能伝承奨励費）の貸与制度があります。 ※研修修了後、プロとして一定期間従事した場合に返還が免除されます。
宿舎等	遠隔地からの研修生は宿舎を利用できます。（有料・審査有） ※空室がない場合は住宅費補助金を給付します。
研修修了後	公益社団法人能楽協会に所属し、能楽師として舞台出演することになります。

★募集要項、応募方法などの詳細については、後日、
国立劇場養成所のホームページ(<https://www.ntj.jac.go.jp/training.html>)
にてお知らせいたします。



能楽とは

「能」と「狂言」を合わせて呼びならわした総称です。観阿弥・世阿弥の大成後650年以上の長きにわたって、その芸が引き継がれてきました。国の重要無形文化財に指定されていて、平成20年には、わが国初のユネスコ無形文化遺産にも登録された、世界に誇るべき日本の伝統芸能です。

能楽[三役]とは

能楽は「シテ方」「ワキ方」「囃子方」「狂言方」と呼ばれる諸役により演じられます。それぞれの役方は完全な分業制となっていて、他の役方を兼ねることはありません。能のシテ(主役)をつとめる「シテ方」を除いた、「ワキ方」「囃子方」「狂言方」を「能楽三役」と呼びならわしています。

ワキ方



シテの相手役であるワキを演じるのがワキ方です。多くの能は、ワキの登場から始まり、ワキは時間や場所、物語の状況を語ります。そして、ワキの前にシテが登場し、シテはワキに自分の素性や境遇、胸の内を語り、舞を見せることで能は展開します。ワキは能のドラマを成立させる上での要となる重要な役方です。

囃子方



能楽の音楽である囃子をつとめる役方で、使用する楽器によって「笛方」「小鼓方」「大鼓方」「太鼓方」に分かれます。他の楽器を兼ねることはありません。能の囃子は単なる伴奏ではなく、立ち役や地謡とともに作品を構成していく重要な役割を担います。

狂言方



狂言方が演じる狂言は日常的なできごとを題材としたセリフ劇で、人間の弱さや愚かしさを笑いにしてしまうところに大きな特徴があります。また、狂言方は狂言の他に、能でアイ(間狂言)を演じます。アイの多くは、能の前場と後場の合間に登場して、物語を説明しながら作品全体を繋ぐ重要な役割を担います。

お問合せ 国立能楽堂養成係

TEL 03(3423)1483 (平日10:00～18:00 7/1、12/29～1/3を除く)
✉ nohaku3yaku@ntj.jac.go.jp



国立能楽堂

東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1